

HDMI® オーバーIPエクステンダ キット - 1080p

ST12MHDLNHK
ST12MHDLNHR



*実際の製品は写真と異なる場合があります。

FR: Guide de l'utilisateur - fr.startech.com
DE: Bedienungsanleitung - de.startech.com
ES: Guía del usuario - es.startech.com
NL: Gebruiksaanwijzing - nl.startech.com
PT: Guia do usuário - pt.startech.com
IT: Guida per l'uso - it.startech.com
JP: 取扱説明書 - jp.startech.com

本製品の最新情報、技術仕様、製品サポートについては、
www.startech.com でご確認ください。

FCC準拠ステートメント

本製品はFCC規則パート15のBクラスデジタルデバイスに対する制限を遵守しているかを確認する試験にて、その準拠が証明されています。これらの制限は、住居環境に設置された場合に有害な干渉から合理的に保護するために設計されています。本製品は無線周波数エネルギーを発生、使用、放出し、指示に従って取り付けられ、使用されなかった場合は、無線通信に有害な干渉を与える可能性があります。一方、特定の取り付け状況では、干渉が起きないという保証を致しかねます。本製品がラジオやテレビ電波の受信に有害な干渉を発生する場合（干渉の有無は、製品の電源を一度切り、改めて電源を入れることで確認できます）、次のいずれかまたは複数の方法を試すことにより、干渉を是正することをお勧めします：

- 受信アンテナの向きを変えるか、場所を変える。
- 製品と受信アンテナの距離を離す。
- 受信アンテナが接続されているコンセントとは異なる回路を使うコンセントに本製品を接続する。
- 販売店が実績のあるラジオ/テレビ技術者に問い合わせる。

本デバイスは、FCC規格Part 15に準拠しています。お使いの際には、次の注意事項をよくお読みください。(1) 本デバイスが有害な干渉を引き起こすことはありません。(2) 本デバイスは予想外の動作を引き起こす可能性のある干渉も含め、すべての干渉を受け入れなければなりません。

StarTech.comにより明示的に承認されていない変更もしくは改変を行った場合、本デバイスを操作するユーザー権限が無効になる恐れがあります。

カナダ産業省ステートメント

本クラスBデジタル装置はカナダのICES-003に準拠しています。

CAN ICES-3 (B)/NMB-3(B)

本デバイスはカナダ産業省ライセンス免除RSS基準に適合しています。

お使いの際には、次の注意事項をよくお読みください。

- (1) 本デバイスが有害な干渉を引き起こすことはありません。
- (2) 本デバイスは予想外の動作を引き起こす可能性のある干渉も含め、すべての干渉を受け入れなければなりません。

商標、登録商標、その他法律で保護されている名称やシンボルの使用

本書は第三者企業の商標、登録商標、その他法律で保護されている名称やシンボルをウェブサイト上で使用することがありますが、これらは一切StarTech.comとは関係がありません。これらの使用は、お客様に製品内容を説明する目的でのみ行われており、StarTech.comによる当該製品やサービスの保証や、これら第三者企業による本書に記載される商品への保証を意味するものではありません。本書で直接的に肯定する表現があったとしても、StarTech.comは、本書で使用されるすべての商標、登録商標、サービスマーク、その他法律で保護される名称やシンボルは、それぞれの所有者に帰属することをここに認めます。

目次

はじめに	1
ST12MHDLNHKのパッケージの内容	1
ST12MHDLNHRのパッケージの内容	1
動作環境および使用条件	2
製品図	3
トランスミッタのフロントビュー	3
トランスミッタのリアビュー	3
レシーバのフロントビュー	4
レシーバのリアビュー	4
ハードウェアをインストールして設定する	5
設置場所の準備をする	5
LANネットワークを使用しないでポイント・ツー・ポイントでインストールする	5
LANネットワークを使用してポイント・ツー・マルチポイントでインストールする	6
Gigabit LAN ネットワークのマトリックス	7
IPを設定する	8
オペレーション	10
LEDインジケータ	10
プッシュボタン制御	11
赤外線 (IR) プラスタとレシーバを操作する	11
ソース デバイスをトランスミッタで直接IRコントロールする	11
ディスプレイ デバイスをレシーバで直接IRコントロールする	12
レシーバからトランスミッタまでのIRエクステンション	12
IR リモート コントロール	12
帯域幅スイッチ	12
解像度スイッチ	12
シリアル コントロール	13
技術サポート	17
保証に関する情報	17

はじめに

ST12MHDLNHKのパッケージの内容

- 1 x HDMIオーバーIPトランスミッタ
- 1 x HDMIオーバーIPレシーバ
- 2 x ユニバーサル電源アダプタ (北米/EU/UK/オーストラリア・ニュージーランド規格対応)
- 2 x 取付用ブラケット
- 2 x CAT5ケーブル
- 1 x プラスチック製ドライバー
- 1 x IRリモート コントロール
- 2 x USB-A - Mini USB-Bケーブル
- 1 x DB9 - 2.5mm シリアル変換ケーブル
- 1 x IRブラスタ
- 1 x IRレシーバ
- 8 x ゴム足
- 1 x ユーザマニュアル

ST12MHDLNHRのパッケージの内容

- 1 x HDMIオーバーIPレシーバ
- 1 x ユニバーサル電源アダプタ (北米/EU/UK/オーストラリア・ニュージーランド規格対応)
- 1 x 取付用ブラケット
- 1 x CAT5ケーブル
- 1 x プラスチック製ドライバー
- 1 x IRリモート コントロール
- 1 x USB-A - Mini USB-Bケーブル
- 1 x DB9 - 2.5mm シリアル変換ケーブル
- 1 x IRレシーバ
- 4 x ゴム足
- 1 x ユーザマニュアル

動作環境および使用条件

- HDMI®対応ビデオ ソース デバイス (コンピュータ、Blu-ray™プレーヤーなど)
- HDMI対応ディスプレイ デバイス (テレビ、プロジェクタなど)、各レシーバにつき1台
- トランスミッタおよび各レシーバ用AC電源コンセント
- ビデオ ソースおよびディスプレイ用HDMIケーブル
- 10/100またはGigabitネットワーク デバイス (LANハブ、ルータ、スイッチなど)
- ネットワーク ケーブル (CAT5/5e/6)

製品図

トランスミッタのフロントビュー



コントロールIR入力/
エクステンションIR 出力
ポート

機能ボタン

トランスミッタのリアビュー



電源
アダプタ
ポート

帯域幅スイッチ

LANポート

解像度スイッチ

HDMIビデオ入力ポート

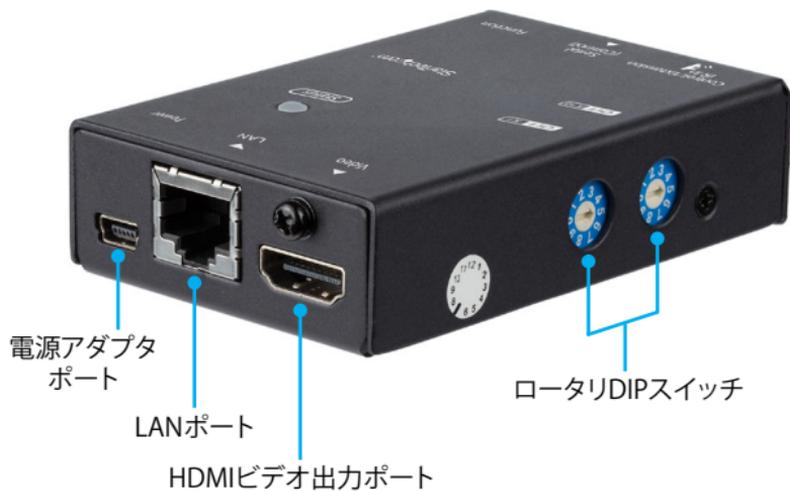
ロータリDIPスイッチ

シリアル(コントロール)ポート

レシーバのフロントビュー



レシーバのリアビュー



ハードウェアをインストールして設定する

設置場所の準備をする

注記:ST12MHDLN HK HDMIオーバード IPエクステンダ キットは、10/100 Ethernet LAN またはGigabit LANネットワーク (推奨) を使用して信号を拡張することができます。2台のEthernetデバイス間の最大対応距離は100mです。

注記:常に付属品のユニバーサル電源アダプタを使用するようにしてください。

エクステンダユニットとレシーバユニットが利用可能なAC電源コンセントの近くに配置されていることを確認してください。

1. HDMI対応ビデオソース(コンピュータ、ブルーレイプレーヤーなど)の設置場所を決め、デバイスをセットアップします。
2. HDMI対応ディスプレイ デバイスの設置場所を決め、ディスプレイを適切な場所に設置/取り付けます。
3. (オプション)追加でレシーバがある場合は(ST12MHDLNHR)、HDMI対応ディスプレイ デバイスの設置場所を決め、ディスプレイを適切な場所に設置/取り付けます。

LANネットワークを使用しないでポイント・ツー・ポイントでインストールする

1. トランスミッタをインストールする

- a) トランスミッタをHDMI対応ビデオソースの近くに設置します。
- b) HDMIケーブルを使って、ソース デバイス(コンピュータやブルーレイプレーヤー)をトランスミッタのHDMIビデオ入力ポートに接続します。
- c) トランスミッタをユニバーサル電源アダプタを使用してACコンセントに接続します。

2. レシーバをインストールする

- a) レシーバをHDMI対応ディスプレイソースの近くに設置します。
- b) HDMIケーブルを使って、HDMI対応ディスプレイ デバイスのビデオ入力とレシーバのHDMIビデオ出力ポートを接続します。
- c) レシーバをユニバーサル電源アダプタを使用してACコンセントに接続します。

注記:トランスミッタとレシーバのロータリDIPスイッチは、通信先デバイスと同じ位置に設定する必要があります。

3. トランスミッタをレシーバに接続します。

- a) 終端処理済みのRJ-45 Cat5/5e/6 EthernetケーブルをトランスミッタのLANポートに接続します。

注記:表面配線を行う場合、十分なCAT 5/5e/6シールド無しツイストペア (UTP) ネットワーク配線で、トランスミッタとレシーバを接続し、各端部がRJ-45コネクタで終端処理されていることを確認してください。

または

構内配線を行う場合、トランスミッタとレシーバ間のCAT5/5e/6シールド無しツイストペア (UTP) ネットワーク配線が、それぞれの場所の壁コンセントで端子処理されており、トランスミッタとレシーバをそれぞれのアウトレットに接続するためのパッチケーブルの長さが十分にあることを確認してください。

b) CAT5/5e/6ケーブルのもう一方の端をレシーバのRJ-45コネクタに接続します。

4. これで、ソースビデオ画像がレシーバのビデオディスプレイで表示されるようになります。

LANネットワークを使用してポイント・ツー・マルチポイントでインストールする

1. トランスミッタをインストールする

- トランスミッタをHDMI対応ビデオソースの近くに設置します。
- HDMIケーブルを使って、トランスミッタのHDMIビデオ入力ポートとソースデバイスのビデオ出力(コンピュータ、ブルーレイプレーヤー)に接続します。
- トランスミッタをユニバーサル電源アダプタを使用してACコンセントに接続します。

2. レシーバをインストールする

- レシーバをHDMI対応ディスプレイソースの近くに設置します。
- HDMIケーブルを使って、HDMI対応ディスプレイデバイスのビデオ入力とレシーバのHDMIビデオ出力ポートを接続します。
- レシーバをユニバーサル電源アダプタを使用してACコンセントに接続します。

注記:トランスミッタとレシーバのロータリDIPスイッチは、通信先デバイスと同じ位置に設定する必要があります。

3. デバイスをLANネットワークに接続する

注記:表面配線を行う場合、十分なCAT5/5e/6シールド無しツイストペア (UTP) ネットワーク配線で、トランスミッタをLANハブ、ルータ、またはスイッチに接続します。

または

構内配線を行う場合、トランスミッタとLANハブ、ルータ、またはスイッチ間のCAT5/5e/6シールド無しツイストペア (UTP) ネットワーク配線が、それぞれの場所の壁コンセントで端子処理されており、トランスミッタとLANハブをそれぞれのアウトレットに接続するためのパッチケーブルの長さが十分にあることを確認してください。

- a) 終端処理済みのRJ-45 Cat5/5e/6 EthernetケーブルをトランスミッタとレシーバのLANポート(RJ-45コネクタ)に接続します。
- b) Cat5/5e/6ケーブルのもう一方の端をトランスミッタとレシーバ、LANハブ、ルータまたはスイッチに接続します。
注記:ルータはIGMPスヌーピングに対応している必要があります。ネットワークスイッチまたはルータの説明書でIGMPスヌーピングへの対応を確認してください。
- c) **(任意)** レシーバ(ST12MHDLNHR – 別売)を追加する場合は、Cat5/5e/6ケーブルで各デバイスをLANハブ、ルータ、スイッチに接続します。

4. IPアドレスを設定します(詳しくは「IPを設定する」を参照)。

5. これで、ソースビデオ画像がレシーバのビデオディスプレイで表示されるようになります。

Gigabit LAN ネットワークのマトリックス

注記:マトリックス/マルチキャスト オペレーションでは、ネットワーク デバイスがIGMPスヌーピングに対応している必要があります。

1. トランスミッタをインストールする

注記:マトリックスに統合できる最大トランスミッタ数は99です。

- a) トランスミッタをHDMI対応ビデオ ソースの近くに設置します。
- b) HDMIケーブルを使って、トランスミッタのHDMIビデオ入力ポートとソースデバイス(コンピュータ、ブルーレイ プレーヤー)のビデオ出力ポートに接続します。
- c) トランスミッタをユニバーサル電源アダプタを使用してACコンセントに接続します。

2. レシーバをインストールする

- a) レシーバをHDMI対応ディスプレイ デバイスの近くに設置します。
- b) HDMIケーブルを使って、レシーバのHDMIビデオ出力ポートとHDMI対応ディスプレイ デバイスのビデオ入力を接続します。
- c) レシーバをユニバーサル電源アダプタを使用してACコンセントに接続します。
注記:接続されているトランスミッタとレシーバのロータリDIPスイッチは、通信先デバイスと同じ位置に設定する必要があります。

3. デバイスをGigabit LANネットワークへ接続する

- a) 終端処理済みのRJ-45 Cat5/5e/6 EthernetケーブルをトランスミッタとレシーバのLANポート (RJ-45コネクタ) に接続します。

注記:表面配線を行う場合、十分なCAT5/5e/6シールド無しツイストペア (UTP) ネットワーク配線で、トランスミッタをLANハブ、ルータ、またはスイッチに接続します。

または

構内配線を行う場合、トランスミッタとLANハブ、ルータ、またはスイッチ間のCAT5/5e/6シールド無しツイストペア (UTP) ネットワーク配線が、それぞれの場所の壁コンセントで端子処理されており、トランスミッタとLANハブをそれぞれのアウトレットに接続するためのパッチケーブルの長さが十分であることを確認してください。

- b) CAT5/5e/6ケーブルのもう一方の端をLANハブ、ルータまたはスイッチに接続します。

注記:ルーターはIGMPスヌーピングに対応している必要があります。ネットワークスイッチまたはルータの説明書でIGMPスヌーピングへの対応を確認してください。

- c) (オプション)レシーバ (ST12MHDLNHR – 別売) を追加する場合は、CAT5/5e/6ケーブルで各デバイスをLANハブ、ルータ、スイッチに接続します。

4. IPアドレスを設定します (詳しくは「IPを設定する」を参照)。

5. これで、ソースビデオ画像がレシーバのビデオディスプレイで表示されるようになります。

IPを設定する

注記:各トランスミッタおよびレシーバのデフォルトIPアドレスは異なります。

DHCPの対応状況を調べる

ネットワーク デバイスがDHCPに対応しているかどうか、有効になっているかどうか調べることで、IPアドレスの設定の次のステップが決定します。ネットワーク デバイスがDHCPに対応していてDHCPが有効になっている場合は、ハブ スイッチまたはルータが自動的にIPアドレスを割り当てます。ネットワーク デバイスがDHCPに対応していない、またDHCPが無効になっている場合は、トランスミッタとレシーバが出荷時の静的IPアドレスにデフォルト設定します。

コンピュータでDHCPが有効になっているかは次の手順に従って確認します。

注記:オペレーティング システムによって手順が異なります。

1. コンピュータの「コントロール パネル」を開きます。
2. 「ネットワークへ接続の表示」を選択します。
3. 接続したいネットワークを右クリックして「プロパティ」を選択します。

4. 「インターネット プロトコル バージョン 4 (TCP/IPv4)」に移動して「プロパティ」を選択します。
5. 次の2つのオプションが選択されていればDHCPが有効になっています。「IPアドレスを自動的に取得する」と「DNSサーバのアドレスを自動的に取得する」
6. IPを手動で設定した場合、次のオプションが選択されている場合はDHCPが無効になっています。「次のIPアドレスを使う」と「次のDNSサーバアドレスを使う」

DHCP設定に合わせてIPアドレスを自動または手動設定してください。

DHCPがネットワークデバイスで有効になっている

DHCP機能に対応しているハブ、スイッチ、ワイヤレス ルータを使用している場合は、DHCPを有効にします。スイッチまたはワイヤレス ルータがトランスミッタとレシーバに自動的にIPアドレスを割り当てます。

注記:ペアリングされているトランスミッタとレシーバは同じ通信チャネルを使用しなくてはなりません。トランスミッタとレシーバが同じロータリDIPスイッチに設定されているか確認してください。

DHCPがネットワークデバイスで無効になっている

ハブ、スイッチ、またはワイヤレス ルータがDHCPに対応していない場合は、トランスミッタとレシーバが出荷時の静的IPアドレスにデフォルト設定します。このIPアドレスを変更するには、WebブラウザでWeb GUIにアクセスする必要があります。まず最初に出荷時に割り当てられたIPアドレスを決定します。これには、ハードウェア インストールをネットワーク デバイスで完了しなければなりません。デフォルトでは、各トランスミッタとレシーバのIPアドレス範囲は169.254.x.xです。コンピュータのIPアドレスとサブネット マスクは、トランスミッタとレシーバと同じアドレス範囲にし、また、ディスプレイで表示されるようにします。次の手順に従ってコンピュータを設定します。

1. コンピュータの「コントロール パネル」を開きます。
2. 「ネットワークへ接続の表示」を選択します。
3. 接続したいネットワークを右クリックして「プロパティ」を選択します。
4. 「インターネット プロトコル バージョン 4 (TCP/IPv4)」に移動して「プロパティ」を選択します。
5. 「IPアドレス」を169.254.x.xに変更します (x=0~255の数値)。
6. 「サブネット マスク」を255.255.0.0に変更します。

変更後トランスミッタとレシーバに電源を入れると、次の情報がコンピュータの画面とHDMIが有効になっているディスプレイ デバイスに表示されます。

```

F/W version:      0.2.4.0.20160406
RX IP address:    169.254.4.18
TX IP address:    169.254.30.117
Group ID:         CH11
Device ID:        IPTV
Status:           Connected
  
```

RX IPアドレスにレシーバのIPアドレスが表示されます。TX IPアドレスにトランスミッタのIPアドレスが表示されます。次の手順に従ってトランスミッタとレシーバの設定にアクセスします。

1. ブラウザのアドレスバーに「TX IPアドレス」または「RX IPアドレス」を入力します。
2. デフォルトの「ユーザID: admin」と「パスワード: 123456」を使用してGUIにログインします。
3. 「Ethernet」ヘッダをスクロール ダウンしてIPアドレス、サブネット マスク、ゲートウェイをトランスミッタとレシーバと同じ範囲で設定します。

注記:トランスミッタおよび/またはレシーバのIP設定を変更した場合は、コンピュータのIPアドレス、サブネット マスク、ゲートウェイをトランスミッタとレシーバの新しい設定と同じ範囲で設定してWeb GUIにアクセスします。

複数のトランスミッタのIPを設定する

複数のトランスミッタのIP設定情報を取得するには、トランスミッタとレシーバをLANで1対1でセットアップします。接続されているトランスミッタとレシーバのロータリDIPスイッチは、通信先デバイスと同じチャンネル位置に設定する必要があります。

オペレーション LEDインジケータ

HDMIオーバーIPTランスミッタのLED動作	意味
注記: HDCPの青色LEDは紫色のLEDに置き換えられています	
緑色に点滅	電源投入開始
緑色に1回点滅+青色に2回点滅	ソースに接続中、リンクなし
青色に1回点滅+緑色に2回点滅	LANに接続中、リンクなし
青色に3回点滅	ソースとLANに接続中、リンクなし
緑色に点灯	ソースに接続中、リンクあり

青色に点灯+緑色に2回点滅	LANに接続中、リンクあり
青色に点灯+青色に2回点滅	ソースとLANに接続中、リンクあり
HDMIオーバーIPレシーバLED動作	意味
注記:HDCPの青色LEDは紫色のLEDに置き換えられています	
赤色に点滅	電源投入開始
緑色に3回点滅	ソースに接続中、リンクなし
青色に1回点滅+緑色に2回点滅	LANとソースに接続中、リンクなし
赤色に点灯	ソースに接続中、リンクあり
青色に点灯+緑色に2回点滅	LANに接続中、リンクあり
青色に点灯+青色に2回点滅	ソースとLANに接続中、リンクあり
青色に点灯+赤色に2回点滅	EDIDコピーでエラー発生

プッシュボタン制御

ユニット	機能ボタン
HDMIオーバーIPトランスミッタ と HDMIオーバーIPレシーバ	トランスミッタとレシーバのペアリングはボタンを1回押してリンクを接続または解除
	3秒間長押ししてスタンバイモードに設定
	注記:この機能を試行する前に、EDID対応ディスプレイをHDMIオーバーIPトランスミッタのHDMIビデオポートに接続してディスプレイに電源を入れます (レシーバのみ)12秒間長押ししてEDIDコピー機能を使用
	24秒間長押しして出荷時デフォルト設定を復元

赤外線 (IR) ブラストとレシーバを操作する

注記:IR信号は、リモートコントロールとレシーバ間で直線見通しを必要とします。IRリモートコントロールは直接IRレシーバに向けてください。IRブラスタは、ソースデバイスのIRレシーバに直接に向けてください。IRレシーバの位置はソースデバイスの取扱説明書を参照してください。

ソースデバイスをトランスミッタで直接IRコントロールする

IRレシーバをトランスミッタのコントロールIR入力 / エクステンションIR出力ポートに接続します。IRリモートコントロールを使用して、HDMIオーバーIPトランスミッタがコントロールできるようになります。

ディスプレイデバイスをレシーバで直接IRコントロールする

IRレシーバをレシーバのコントロールIR入力 / エクステンションIR 出力ポートに接続します。IRリモートコントロールを使用して、HDMIオーバーIPレシーバがコントロールできるようになります。

レシーバからトランスミッタまでのIRエクステンション

IRレシーバをレシーバのコントロールIR入力 / エクステンションIR 出力ポートに接続します。IRレシーバをトランスミッタのコントロールIR入力 / エクステンションIR 出力ポートに接続します。トランスミッタ側に設置されているIR対応ターゲットデバイスのIRリモートコントロールを使用して、レシーバ側からIRデバイスをコントロールできるようになります。

IR リモート コントロール

特殊キー	機能
M3 (+Shiftでトランスミッタをコントロール)	チャンネル ダウン
M5 (+Shiftでトランスミッタをコントロール)	チャンネル アップ
1-9 (+Shiftでトランスミッタをコントロール)	1~9の間の一桁のチャンネルを選択
1-9 +10/0 (+Shiftでトランスミッタをコントロール)	10~99の間の二桁のチャンネルを選択
(トランスミッタのみ) Shift + ビデオ	LAN出力 オン/オフ切り替え
(レシーバのみ) ビデオ	HDMI出力 オン/オフ切り替え

帯域幅スイッチ

4段階のスイッチでトランスミッタに送信されるデータの帯域幅を調節します。少数のトランスミッタをHDMI対応高画質ディスプレイに接続している場合は、帯域幅スイッチを高帯域幅の「H」にします。多数のトランスミッタをHDMI対応高画質ディスプレイに接続している場合は、帯域幅スイッチを低帯域幅の「L」にします。複数のレシーバがソース デバイスに接続されている場合は、「H」と「L」の間にスイッチを合わせて帯域幅を最適化し、最適なディスプレイ パフォーマンスを実現します。

解像度スイッチ

2段階のスイッチでHDMI対応ディスプレイ デバイスすべての解像度を調節します。解像度スイッチを右側に切り替えると (小さな印が付いています) 1080pです。解像度スイッチを左側に切り替えると (小さな印が付いています) 720pです。トランスミッタにスイッチがあるため、このトランスミッタとペアリングされているすべてのレシーバのすべてのデバイスに解像度が適用されます。

シリアルコントロール

トランスミッタとレシーバは、シリアル接続でコントロールできます。

注記:1回のコントロールで、1つのトランスミッタまたはレシーバのみコントロールできます。

トランスミッタまたはレシーバのいずれかをコンピュータに接続するには、DB9 - 2.5mmシリアル変換ケーブルをコンピュータのシリアルポートに接続して、2.5mmコネクタをトランスミッタまたはレシーバのシリアル(コントロール)ポートに接続します。シリアルでトランスミッタまたはレシーバをコントロールするには、次の設定をコマンドを使用します。

シリアルの設定	
タイプ	RS232
ボーレート	38400
データビット	8
パリティ	該当なし
ストップビット	1
フロー制御	該当なし

トランスミッタコマンド	説明
IP=n1.n2.n3.n4	IPアドレス 例:n1=192、n2=168、n3=1、n4=1 IPアドレス=192.168.1.1
NETMASK=n1.n2.n3.n4	ネットマスク 例:n1=255、n2=255、n3=255、n4=0 ネットマスク = 255.255.255.0
GATEWAY=n1.n2.n3.n4	ゲートウェイ 例:n1=192、n2=168、n3=1、n4=189 ゲートウェイ = 192.168.1.189

IPALL=i1.i2.i3.i4 n1.n2.n3.n4 g1.g2.g3.g4	例:i1=192、i2=168、i3=1、i4=1、 n1=255、n2=255、n3=255、n4=0、 g1=192、g2=168、g3=1、g4=189 IPアドレス = 192.168.1.1; ネットマスク:255.255.255.0; ゲートウェイ:192.168.1.189
GROUP=n	Group ID、n:0 ~ 1023 例:n=22、Group ID=22
OBR=n、m	出力ビットレート、n=F、H、S (FHD、HD、SD)、m=ビットレート (Kb) 例:OBR=F、8、フルHD形式8ビット レート ディスプレイ
DS=n、m	ダウンスケール出力 n = F or H (F = FHD、H = HD)、m = F、H、S (F = FHD、H = HD、S = SD)、 例:DS=F、H、1080p から 720pに ダウンスケール 例:n=115200、Bypass ポーレート115200
DN=n	デバイス名 n:ASCII String (最大サイズ - 31) 例:DN =0C、デバイス名=12
GCID	会社IDを取得
VS	現在の設定を表示する
PI	製品情報
FACTORY	工場出荷時の初期設定にリセットする
REBOOT	デバイスを再起動する
UPDATE	ファームウェアを更新する
PAUSE=n	ファームウェアを一時停止または 実行する、n:0 - Run、n=1 - Pause 例:PAUSE=0、ファームウェアを 実行する

PWD=n	Power オン/オフ、n:0、電源オン、n=1 電源オフ 例:PWD=1、トランスミッタの電源オフ
-------	--

レシーバコマンド	説明
CE	モニタEDIDをトランスミッタにコピーする
AVOE	オーディオビデオ出力有効化
AVOD	オーディオビデオ出力無効化
MAC=n1 n2 n3 n4 n5 n6	MACアドレスを設定する
DHCP=n	DHCP オン/オフ、n:0 - オフ、1 - オン 例:DHCP = 1、DHCP オン
IP=n1.n2.n3.n4	IPアドレス 例:n1=192、n2=168、n3=1、n4=1 IPアドレス=192.168.1.1
NETMASK=n1.n2.n3.n4	サブネット マスク 例:n1=255、n2=255、n3=255、n4=0 サブネット マスク:255.255.255.0
GATEWAY=n1.n2.n3.n4	ゲートウェイ アドレス 例:n1=192、n2 =168、n3=1、n4=189 ゲートウェイ アドレス=192.168.1.189
IPALL=i1.i2.i3.i4 n1.n2.n3.n4 g1.g2.g3.g4	例:i1=192、i2=168、i3=1、i4=1 n1=255、n2=255、n3=255、n4=0 g1=192 g2=168、g3=1、g4=189、 IPアドレス=192.168.1.1; サブネット マスク=255.255.255.0; ゲートウェイ:192.168.1.189
GROUP=n	グループ ID、n:0 ~ 1023 例:n = 22、グループ ID=22

BAUD=n	バイパス ボーレート、 n :2400、4800、9600、19200、28800、 38400、57600、115200 例:BAUD =115200、バイパス ボーレート115200
DN=n	デバイス名 n:ASCII String (最大サイズ - 31) 例:DN =0C、デバイス名=12
GCID	会社IDを取得
VS	現在の設定を表示する
PI	製品情報
FACTORY	工場出荷時の初期設定にリセットする
REBOOT	デバイスを再起動する
UPDATE	ファームウェアを更新する
PAUSE=n	ファームウェアを一時停止する、 n:0 - 自由実行、1 - 一時停止 例:PAUSE=0、ファームウェアを 実行する

技術サポート

StarTech.comの永久無料技術サポートは、当社が業界屈指のソリューションを提供するという企業理念において不可欠な部分を構成しています。お使いの製品についてヘルプが必要な場合は、www.startech.com/support までアクセスしてください。当社では、お客様をサポートするためにオンラインツール、マニュアル、ダウンロード可能資料をご用意しています。

ドライバやソフトウェアに関する最新情報は www.startech.com/downloads でご確認ください

保証に関する情報

本製品は2年間保証が付いています。

StarTech.comは、資材や製造工程での欠陥に起因する商品を、新品購入日から、記載されている期間保証します。この期間中、これら商品は修理のために返品されるか、当社の裁量にて相当品と交換いたします。保証で適用されるのは、部品代と人件費のみです。StarTech.comは商品の誤用、乱雑な取り扱い、改造、その他通常の摩耗や破損に起因する欠陥や損傷に対して保証いたしかねます。

責任制限

StarTech.com Ltd. やStarTech.com USA LLP (またはその役員、幹部、従業員、または代理人) は、商品の使用に起因または関連するいかなる損害 (直接的、間接的、特別、懲罰的、偶発的、派生的、その他を問わず)、利益損失、事業機会損失、金銭的損失に対し、当該商品に対して支払われた金額を超えた一切の責任を負いかねます。一部の州では、偶発的または派生的損害に対する免責または限定的保証を認めていません。これらの法律が適用される場合は、本書に記載される責任制限や免責規定が適用されない場合があります。